

風土記の丘の花だより²⁰³

今、そしてこれから見られる植物(2023年9月16日)

急に大雨が降ったり、雷が鳴ったりと、不安定な天気が続いています。天気も暑さも早く落ち着いてほしいものです。鳴いているセミはツクツクボウシだけになってしまいました。なんとなく寂しい秋の訪れです。



ずっと前にコニシキソウを紹介しましたが、今回はオオニシキソウです。嘘みたいな名前ですが、本当にあります。これは安藤塚で撮った写真ですが、全然珍しくない草ですから、生えている所はまだまだたくさんあることでしょう。コニシキソウみたいに葉の真ん中に赤っぽい斑紋があります。メリケンカルカヤやチガヤなど、背の高いイネ科の雑草に混じって生えているので、コニシキソウのように地面を這うことがなく、上に伸びます。これでチュウニシキソウがあれば面白いのですが、それはありません。



木やフェンスなどに巻き付いて黄色くて小さな花を咲かせているのはタンキリマメ(左)とトキリマメ(右)です。観察会などでは「どっちがどっち？」と盛り上がるおなじみの2つのつる植物です。わかりやすいのは葉の形です。葉の幅の最も広いところが、タンの方は先の方にあり、トの方は元の方にあります。こんなに、名前も、葉も、花も、実も似ている草も珍しいですね。でも、違いが分かったら何か嬉しいですよ。



「花はどこへ行った」昔こんな歌がありましたね。本当に花はどこでしょう。真ん中にポチっと白い花が咲いているのがおわかりになりますか？実際の大きさはさて2ミリあるでしょうか、かなりの小ささです。名前はヒメヨツバムグラ、アカネ科の植物です。ヒメは小さい、ヨツバはそのまんま「四つ葉」、ムグラは盛り上がるように茂る草という意味です。どこにでもある草ですが、余りにも小さいので、意識しない限り、花を注意深く見ることは、まずないでしょうね。



スズメノトウガラシです。「何でこんな所に生えてるの？」見たときそう思いました。普段は田んぼや湿地の周りに生える草で、万葉植物園のように踏み固められた所では見た記憶がありませんでした。トウガラシと付きますがナス科ではなく、アゼナ科という仲間です。細長い実がトウガラシに見える(?)ことからそう名付けられました。うすいピンク色の花はお昼になると、ポロリと落ちます。観察されるのならお早めに。

松下